

モンシロチョウ

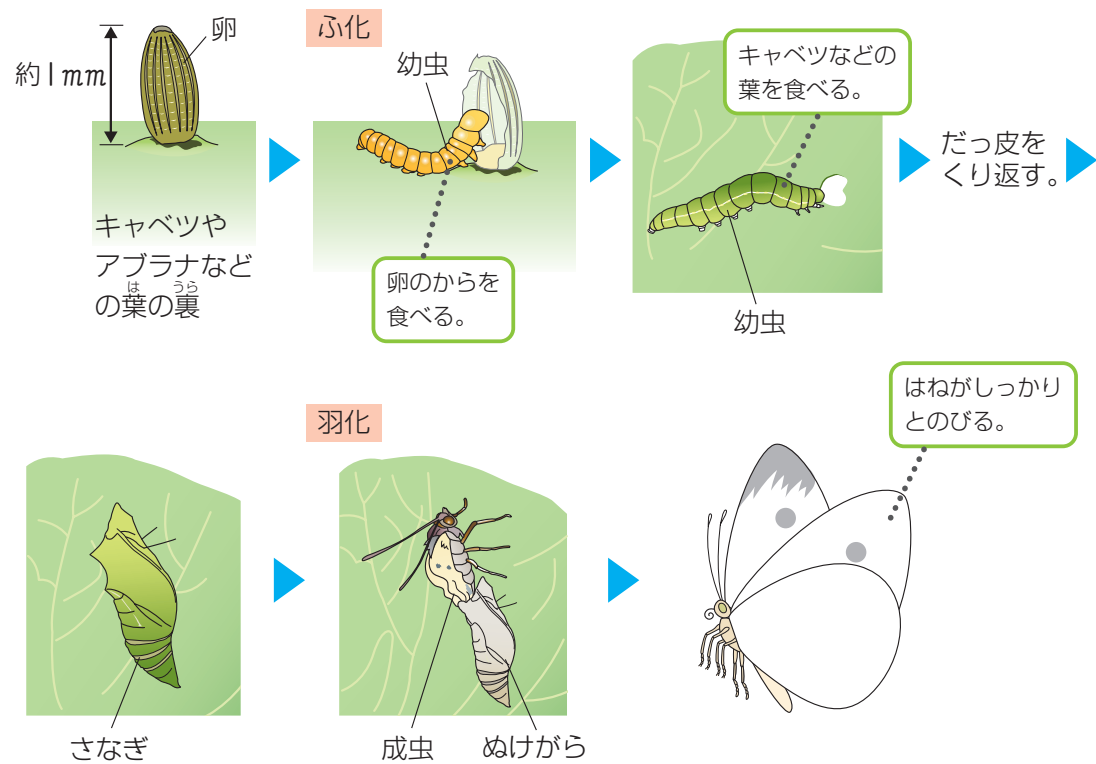


モンシロチョウは、日本全国で見られるチョウです。暖かい季節になると、成虫が畑や花だんのまわりなどを飛び回っているのが見られます。



成長のようす

モンシロチョウなど、チョウは(1)です。卵が(2)すると、幼虫は(3)をくり返して大きくなり、やがてさなぎになります。しばらくすると(4)し、成虫になります。



モンシロチョウは風が当たりにくい場所で(5)のすがたで冬ごしします。春になると(6)して成虫になり、めすが(7)に卵を産みます。その卵が成長し、2か月ほどで成虫になります。

モンシロチョウは、春から秋にかけて、(8)、というサイクルを何度かくり返しますが、(9)に(10)した幼虫はさなぎになるとそのまま(11)のすがたで冬ごしします。

食べ物とすみか

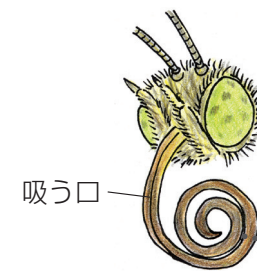
モンシロチョウの幼虫は、キャベツやアブラナなど(12)にすみ、それらを食べます。成虫は、花だんや畑にすみ、(13)を食べます。

からだのつくり

モンシロチョウの幼虫には、胸の部分にあしが(14)、腹の部分にあしが(15)あります。葉を食べるので、(16)です。

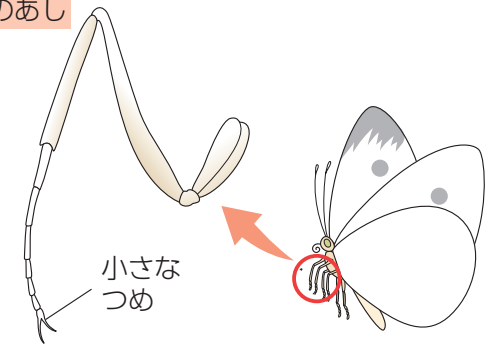
モンシロチョウの成虫は、花のみつを食べるので、(17)です。あしには小さな(18)があり、花などにつかまりやすくなっています。

成虫の口



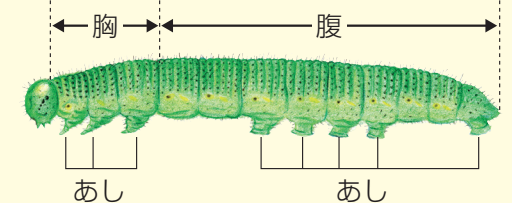
花のみつを吸うときはのびる。

成虫のあし



からだのつくり

幼虫に生えているあしのうち、胸から生えている6本が本当のあし、腹から生えているのは「腹きやく」というあしです。



飼育の仕方

卵が産みつけられた葉を、空気が通る穴のあいた容器に入れて(19)場所に置きます。ふ化したらキャベツの葉などをあたえ、毎日食べ残しやふんのそうじをします。幼虫は手でさわらないようにします。

さなぎになったらそっとしておくと、やがて(20)して成虫になります。

